

「保育の基本」の習得に関する研究（2） ～実習での実践に結びつく知識の構築～

A Study about Foundation of Early Childhood Care and Education（2）

（2013年3月31日受理）

小野 順子

Junko Ono

Key words : 保育者養成, 教育課程, 保育実習, 幼稚園教育実習, 保育の知識

抄 録

本研究は筆者が昨年度行った『「保育の基本」の習得に関する研究』を受け、引き続き行うものである。保育者となる学生が当然身に付けておかなければならない「保育の知識や技術」を、いつ、どのようにして学ぶことが学生にとって有効であるのか。これを明確にするために、本研究は実習前の学習に焦点を当てた。保育の現場で実際に子どもに向き合う時（実習中）、必要である知識、実習での実践に結びつくことで深まる知識等、実習前に学生が修得すべき知識について考察を試みた。今回は養成校教員の見解をまとめ、前回の結果との比較を試み、「実習に役立つ保育の基本的知識」について考察した。

1. はじめに

本研究は筆者が昨年度行った『「保育の基本」の習得に関する研究』を受け、引き続き行うものである。昨年度の研究では、保育の現場で実際に子どもに向き合う時必要である知識や実習での実践に結びつくことで深まる知識等、実習前に学生が修得すべき知識について考察を試みた。そして、実習前の期間が短期大学の場合1年という短期間であるので、そこで修得する知識の量を少なくしたいという思いから、多種多様な知識の中から「基本的」な知識を精査・考察した。その結果、現場からの要望としての「保育の基本的知識」と養成課程で要求されている「保育の基本的知識」を明確にした。

そこで、今回は養成校教員の見解をまとめ、共通点を見だし、「実習に役立つ保育の基本的知識」について考察する。そして、その後、それらが短期大学の授業で修得できると考えられる科目と授業方法や内容について検討する。この時、学生の興味、学習意欲も調査しその

結果を考慮する。なぜなら、保育者養成校学生の実態研究で、現在の学生の問題点として、「学生の基礎的な学力が低下しただけでなく、『勉強しよう』という学習意欲そのものが著しく低下してしまった。（中略）理論系の科目に関心を寄せないことは、学生が『筋道を立てて考えようとしていない』ことを示しているのではないだろうか。」¹との意見が多いので、学生の興味や意欲の考慮が有効な学習につながると考えるからである。

2. 保育者養成校教員の見解

まず、保育者養成校の教員が実習前の学生に必要であると考えている知識について養成校教員の考えをまとめる。

多くの養成校教員が保育学生の教育内容や教育方法について論じているが、本研究では、実習関係の教科書の記述と研究論文（平成24年全国保育士養成協議会第51回研究大会発表）の検討から、「実習前に学ぶ必要がある」

「実習前に学んでおくとよい」知識を取り上げ整理する。

1) 全国保育士養成協議会

実習指導計画の事前指導には、実習のねらいとして以下のように書かれている。

1. 実習の意義・目的・内容を理解させる。

保育士養成課程における「保育実習Ⅰ」の位置づけを学び、その意義・目的を理解させる。

「保育実習Ⅰ」の具体的内容を把握し、実習計画全体を理解させる。

2. 実習の方法を理解させる。

実習の段階を学び、その具体的内容と実習の方法を理解させる。

保育士の職務を理解し、その役割について理解させる。

子ども(利用者)理解の方法を学ばせる。

3. 実習の心構えについて

個人のプライバシーの保護と守秘義務の主旨を学び、理解させる。

個人情報の保護に関する法律の主旨を理解させる。

実習生としてふさわしい服装や言葉遣いについて確認させる

社会人として必要な挨拶や時間厳守の意味を理解させる。

4. 実習課題を明確にさせる。

実習において自らの達成すべき課題を明らかにさせる。

5. 実習の意義・方法を理解させる。

記録を取ることの意義を考えさせる。

実習記録の具体的内容を確認し、その記録方法を学ばせる。

6. 保育計画、指導計画を理解させる。

保育計画・指導計画、援助計画の意義を学び、保育の計画について理解させる。

指導・援助計画を立案するために必要な知識を習得させる。

7. 実習施設を理解させる。

事前の保育所・施設見学、またはビデオや講演等を通じて、実習施設を理解させる。

様々な種別の児童福祉施設に関心を持たせる。

事前訪問を実施させ、実習施設におけるオリエンテーション参加させる。

事前訪問の結果・成果について確認し、報告させる。

8. 実習に関する事務手続きについて把握させる。

履歴書(個人表)など実習に必要な書類を作成させる。

検便(腸内細菌検査)・健康診断等の手続きをさせる。

実習保険に入る意義、緊急時の連絡方法を理解させる。

9. 実習直前の指導をする。

欠席や遅刻・早退の連絡方法を伝える。

評価票の内容について把握させる。

教員の訪問指導の意義やその内容を学生に伝える。

実習指導者と訪問指導者が異なる場合は、学生と訪問指導者との打ち合わせを事前に行う。²

実習の事前指導として以上の項目が挙げられている。この中で、実習関係以外の教科で学ぶ内容と考えられるのは、「保育士の職務を理解し、その役割について理解させる」「子ども(利用者)理解の方法を学ばせる」「個人のプライバシーの保護と守秘義務の主旨を学び、理解させる」「個人情報の保護に関する法律の主旨を理解させる」「保育計画・指導計画、援助計画の意義を学び、保育の計画について理解させる」「様々な種別の児童福祉施設に関心を持たせる」であると考えられる。

2) 『実習生のための自己評価チェックリスト』編纂委員会

この委員会は、実習生がする必要があることをチェックリストで答えさせている。その形式は、「あなたは、実習に備えての健康管理に努めましたか」のように、実際に実習生が「はい・いいえ」で答える質問形式である。この中で、事前にしておく必要があることは、「健康管理・ハサミやナイフの練習・正しい敬語・ピアノや手遊び、紙芝居・絵本の読み聞かせの練習・子どもの発達の学習」³である。

知識に関する教科での授業で学ぶことを求めていると

思われるものは、「子どもの権利に関する学習」「障害児保育の意識的な学習」「障害児保育と関連のある専門機関についての学習」「子どもの発達に関する学習」であると考えられる。

3) 小口巧

実習に行く前に身につける必要がある理論・制度の学習について、以下のように述べている。

「実習で子どもの保育を肌で体験することになる。しかしそれぞれの保育体験の意味を理解するためには、保育の対象である子どもの発達に関する科学的な知識を、実習に行く前に身につけておく必要がある。子どもの興味、能力、生活習慣などに関する学問的な知識を知ってはじめて、好ましい保育実践を目指すことができるからである。それから幼稚園教育のような公的な家庭外での保育は法律の定めに従い行政の援助によりさまざまな教育条件が一定の基準により決められている。これらの制度的な枠組みも、実習前に学習しておく必要がある。以上理論と制度に関する内容を、保育原理、教育原理、発達心理学などの教職専門科目で学習する。」⁴

学習内容としては、「子どもの発達に関する科学的な知識」「子どもの興味、能力、生活習慣などに関する学問的な知識」「公的な家庭外での保育の行政制度」が必要であるとし、具体的な科目名も記している。

余談ではあるが、技術の訓練についても述べている。本研究には関係しないところであるが、参考までに以下に記す。

「多数の子どもを相手に保育指導を行うには、さまざまな技術が必要である。次に示すのがそのおもなものである。これらは、音楽、図工、体育に関する科目などの教科専門の科目で学ぶ。なかでもピアノは、一定のレベルにまで技術が習熟していないと、幼稚園での指導ができない。そのためピアノの練習に力を入れる大学・短大が多い。

- ピアノの伴奏、歌唱の指導、楽器の演奏などの音楽に関する技術
- 遊具の製作、壁面の装飾などのデザイン・工作に関する技術
- ゲームや折り紙などの、遊びの移動に関する技術
- ダンスやボール遊びなど、運動に関する技術

○子どものほめ方、しかり方、対話の方法など、話術に関する技術」⁵

4) 百瀬ユカリ

百瀬は、実習に関して2冊の教科書を書いている。「よくわかる保育所実習」と「よくわかる幼稚園実習」である。まず、保育所実習では、「保育園には、0歳児から就学前の子どもまで、さまざまな発達段階の子どもがいます。「こどもといっても、その対応は発達段階に応じて異なります。現場で、実習生がもう少し勉強してきてくれたらよいと思われることの1つに、こどもの発達段階をもっと知ってほしいということがあります。」⁶とのべ、子どもの発達の特徴（発達段階）を学ぶことが重要であるとしている。

次に、幼稚園実習に関しては、具体的な教科目名を挙げている。それを以下に記す。

「○保育原理・保育課程総論（教育課程総論）

○発達心理学（幼児心理学）

○保育者論

○保育内容関連科目

○実習関連科目

○保育技術（指導技術）

○幼稚園教育要領 　　　　　 など」⁷

また、実習に役立つ実技として、「手遊び」「絵本の選び方」「主活動の実際」の例を挙げている。⁸

5) 松下由美子

保育所実習については、「保育所における保育実習は、保育士養成校で習得した教科全体の知識や技能を基礎として、それらを総合的に応用しながら、保育現場において実践的に学ぶことを目的としている。（中略）実習では養成校での教科において学んだ知識や技能を総合的に試すことになるわけだが、それだけでなく、実習生自身の人間性や感性、価値観を十分に表現しなければならない場面がある。」⁹と述べるのみで、具体的な知識や技術を挙げていない。

幼稚園実習については「幼稚園の役割や機能について、理論的に身につけた知識を現場の保育の中で具体的に学ぶことも重要な目標である。園が担っている子どもに対する教育的役割、保護者や地域に対する子育て支援の役

割を、日々の保育の中で学び取りながら、幼稚園教育の意義を理解していく。」¹⁰としているので、「幼稚園の教育的役割」や「子育て支援の役割」が事前の学習として必要としていると思われる。

6) 前橋 明

施設実習について述べている。実習で学習すべきことは、「学内での講義や演習を通して、理論や知識、技能を獲得すること」と「それらに基づく実践活動を通しての経験的知識の獲得と実践への応用力を育成すること」であるとして、具体的に以下のように2点にまとめている。

「①実習を通して出会う利用児・者と直接に関わりながら、これまで学習していた理論や知識・技術を実践に応用し、理論と実践の関係を深化・発展させていくことである。具体的には、利用児・者のニーズや課題を正確に把握して、実際の援助活動が可能になるよう、その基礎を身につけることと、そのための地域や技術を、職員の方々から学んでいくことにある。②施設の利用児・者と直接、関わりながら、一人ひとりの状況や、職務内容や施設そのものを経験的に理解していくことである。これは、学生自らの人間観や保育観、福祉観を確認し、再構築していくことでもある。」¹¹

以上から、事前の学習としては、利用児・者の理解に加えて「学生自らの人間観や保育観、福祉観」を確立しておくことが必要と述べていると考える。

7) 内藤知美

幼稚園教育実習に必要な知識や技術として次のように述べている。「これまで幼稚園教諭免許を取得するために養成校の教職課程を履修し、講義や演習を通してさまざまな学習を行ってきた。具体的には、「教育原理」や「保育者論」などの教育の理念や教職の意義などを学ぶ科目、「発達心理学」や「保育内容」などの子どもの発達や遊びをみる科目、「保育方法」などの保育の方法に関する科目、「音楽」などの保育に必要な技能を習得する科目というように、各校によって名称や開講時期は異なるが、いずれの養成校においても保育に関する専門科目を通じてさまざまな知識や技術を学んできている。これら各授業の内容は、すべて幼稚園での保育実践にひ

つような内容である。」¹²

すなわち、教育実習は、「学内でのさまざまな授業、幼児とのかかわり、これら学習内容及び経験内容を保育実践にまで高めていくことが実習の大きなねらいなのである。」¹³ので、「実習前に点検する学習内容」としては、具体的に以下の内容を挙げている。

- 「・幼児理解に関する内容
- ・教師の役割に関する内容
- ・保育の内容に関する内容
- ・保育の方法に関する内容
- ・幼稚園の機能に関する内容」¹⁴

8) 大方美香・柴田智世・橋本祐子

幼稚園教育実習の半年前の準備として、

「①どのような保育者になりたいか、どのような保育をしたいかを考えておく

②子どもにわかりやすい話し方の練習をする

③明るく元気の挨拶ができるよう、日頃から練習しておく

④ピアノの演習をしておく（季節や保育内容を配慮した上で、弾き歌いを確実なものにしておく）」

と述べていることから、学生に「保育観」の確立を求めているが、それ以外の知識的な内容は述べていない。

幼稚園教育実習の半年前から3ヶ月前では、

「①保育に関する基本的な理論や幼児の発達について復習しておくすべての科目が実習と結びついている。特に、小児保健、発達心理学、教育心理学や保育内容全般の教科書を読み直そう、幼児の発達については、各年齢における発達の特徴を理解しておこう。

②事故や病気への対応を学ぶ

③子どもが見てわかりやすく楽しめる名札を作り、自己紹介の仕方を考えておく」¹⁵

とあり、「小児保健、発達心理学、教育心理学や保育内容全般」の理解と「事故や病気への対応」の必要を述べている。また、実習3ヶ月前からは、実習研究の授業内容に含まれることを主に述べている。例えば、「実習の目標を立てる」「記録の書き方を理解しておく」等であるので、本研究の目的を考慮し、これらは省く。

9) 阿部和子

現行の養成課程における保育実習の目的に「保育実習

は、その習得した教科全体の知識、技能を基礎とし、これを総合的に実践する応用能力を養うため、児童に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟させることを目的とする」と述べられていることから、「ある程度の教科目を学んでから、現場での実習が想定されています。また、児童に対する理解を通じて保育・養育の理論と実践の関係について習熟するということから、実習は実習期間だけのことではなく、実習期間前の学びと実習後の学びのつながりのなかで考えることとなります。保育実習に行く前にどのような教科目を学ぶか、また、実習後にどのような教科目を学ぶかは、養成校ごとに異なりますが、実習前に学んだことが実習で実践する上での基礎となり、実習で学んだことや課題を養成校に持ち帰り、養成校での学びの土台になるという理論と実践の往還作用が、保育・養育についての学びを深めていくこととなります。」¹⁶と述べているが、具体的な事前学習内容に関する記述は確認できなかった。

10) 増田まゆみ

実習生に対して事前に学習することについて、実習生を受け入れる保育者の要求として述べている。

「実習に臨むにあたって、何のために、何を学ぶのかという目的意識を持つことを求めている。目的意識が欠けると、実習生の主体性や意欲も生まれてこない。そして、人間が社会生活を送っていくうえで、当たり前のことが当たり前のこととしてできる、つまり、日常生活のマナーを身につけておくことを求めている。」¹⁷として、目的意識を持つことと日常生活のマナーの知識の必要性を述べているが、具体的な教科目内容については言及していない。

保育者養成校教員の個々の見解をまとめる。

○全国保育士養成協議会

保育士の職務とその役割、子ども(利用者)理解・個人のプライバシーの保護と守秘義務、個人情報保護に関する法律、保育計画、児童福祉施設の種別と内容

○実習生のための自己評価チェックリスト編纂委員会

子どもの権利に関する学習、障害児保育の学習、障害児保育と関連のある専門機関についての学習、子どもの発達の学習

○小口巧

子どもの発達に関する科学的な知識、子どもの興味・能力・生活習慣などに関する学問的な知識、公的な家庭外での保育の行政制度

○百瀬ユカリ

<保育所実習>子どもの発達の特徴(発達段階)

<幼稚園教育実習>保育原理・保育課程総論(教育課程総論)、発達心理学(幼児心理学)、保育者論、保育内容関連科目、実習関連科目、保育技術(指導技術)、幼稚園教育要領

○松下由美子

幼稚園の教育的役割、子育て支援の役割

○前橋 明

利用児・者の理解、学生自らの人間観や保育観・福祉観

○内藤知美

幼児理解、教師の役割、保育の内容、保育の方法に関する内容、幼稚園の機能

○大方美香・柴田智世・橋本祐子

保育観、小児保健、発達心理学、教育心理学、保育内容全般、事故や病気への対応

○阿部和子

目的意識を持つこと、日常生活のマナーの知識

この中で、多いものを挙げると、子ども(利用者)理解、子どもの発達、保育者の職務、保育観であった。従って、保育者養成校の教員は実習の前には「子ども(利用者)理解」「子どもの発達」「保育者の職務」「保育観」についての学習が必要と考えていると言えよう。

3. 保育実習・教育実習に必要な知識

1) 保育現場(保育所・幼稚園・施設)の意見

「保育現場が実習生に望む保育者としての資質」の調査結果を前稿で再考し、実習前に身につけておいてほしい知識を明らかにした。それは、「教育観・保育観・幼児理解・特別支援教育や発達障害・子どもの発達・保育方法・保育内容・保護者支援」であった。

2) 実習を受ける幼稚園の意見

本学が実習先に送付している「幼稚園教育実習に関す

る調査」を前稿でまとめた。その結果、幼稚園教育実習の前に身につけてほしい知識として以下のものが上がった。

発達に関する知識、発達障害に関する知識、保育の方法や内容に関する知識（幼児の安全に関する知識、絵本やうた、手遊び等の実習生が最初に行う指導の教材に関する知識）、指導案や実習課題を支える知識

3) 保育現場と養成校教員の見解の相違

実習を受け入れている園・施設の保育者の意見と学生の教育に当たっている保育者養成校の教員の考えを比較すると表1になった。

表1

実習前に学んでおくべき知識	実習園	養成校
教育観・保育観	○	○
幼児理解	○	○
特別支援教育や発達障害	○	
子どもの発達	○	○
保育の方法や内容	○	
指導案や実習課題を支える知識	○	
保護者支援	○	
保育者の職務		○

現場の保育者は養成校の教員よりも多くのことを実習生に望んでいることがわかる。保育の方法、指導案や実習課題を支える知識は、数は少なかったが養成校の教員からも出ていた項目であった。しかし、特別支援や保護者支援に関しては養成校教員の意見にはあまりなかった項目である。これらは現在、現場の保育者にとって最も問題となっていることであるが、初めて現場に行く実習生が抱える問題であるかどうかは判断が難しいことであろう。しかし、実際に現場から要望のあったこととして、今後考慮していく必要がある。

4. まとめと今後の課題

保育者養成において、実習は大きな意義を持つ。実習で何を学び、それを次にどう生かすかは、保育者としての資質に重大な影響をもたらすと考える。そこで、本研究では実習での学びが豊かになるための知識とは何かを

明らかにすることを考察した。その結果、「教育観・保育観」「幼児理解」「子どもの発達」の3項目を導き出した。養成校において学習する科目群（表2参照）に等しく含まれるものであるので、この3項目については妥当であると考えが、今回は保育実習（保育所、施設）と幼稚園教育実習を分けることなく考察した。保育を行う施設での実習という意味で、は同じであろうが、免許・資格が異なる実習を「保育」という言葉でまとめてしまった。少なくとも、施設、保育所、幼稚園の3種類の実習に行く前に学習すべき内容について検討すべきである。これは、今後の課題である。

また、今回の結果を基に実習前に学生が学習する科目と学習形式、方法を考察することも今後の課題として残った。これを検討する時、知識を実践に結びつける方法も考える必要がある。保育は、目の前の子どもの成長を願う営みであるので、知識のみが先んじることのないように考えなければならないからである。佐伯は次のように述べている。「さまざまな“知識”は子どもを理解する上で一言い換えれば『保育を見る』上で、大切な手がかりになるが、一方で、その知識が1つの枠としてそれ以外の理解の幅を限定させてしまう可能性も想定できるのである。」¹⁸知識のみの学習とならないよう、実践を意識した学習方法を考えなければならない。

また、幼稚園教師となるための実習への心構えとして、秋山は次のことを配慮するよう述べている。

幼稚園教師の仕事とは、理論を背景にして「自分の目の前の現実の子どもたちに対する方法をつくり出していく」ことである。従って、「教育実習ではそれらに加えて、子どもの実態の把握、指導の方法・子どもへの対処の方法などを、教育学や心理学の理論や知識と子どもの事実をふまえて、教師自身が判断し、創り出していくことができる能力を養成していくことが課題とされる。」¹⁹すなわち、保育者を目指す学生は、知識や技術の習得のみを目指すのではなく、その知識や技術と目の前の子どもの現実から判断し、自分の保育を創り出す能力が要求される。

保育を取り巻く社会状況はますます複雑になり、施設・保育所・幼稚園が担う役割や保育所への期待は高まってきている。社会全体の傾向として、保育者養成に量が求められているが、質の確保が最優先であることは疑いな

いことである。限られた養成期間で質の高い保育者を養成するためには、実習の効果は有効である。この効果を最大限に引き出すための事前学習について、さらに研究を重ねていきたい。

表 2

系列	教科目
保育の本質・目的理解に関する科目	社会福祉，社会福祉援助技術，児童福祉，保育原理，養護原理，教育原理
保育の対象理解に関する科目	発達心理学，教育心理学，小児保健，小児栄養，精神保健，家族援助論
保育の内容・方法理解に関する科目	保育内容，乳児保育，障害児保育，養護内容
基礎技能	基礎技能
保育実習	保育実習
総合演習	総合演習

¹ 佐藤 「保育者を目指す学生の生活と学習について」 全国保育士養成協議会第49回研究大会研究発表論文集 2010 p98

² 全国保育士養成協議会（2007）「保育実習指導のミニマムスタンダードー現場と養成校が協働して保育士を育てるー」 北大路書房pp105-106

³ 『実習生のための自己評価チェックリスト』 編纂委員会（2005） 萌文書林「実習生のための自己評価チェックリスト」 pp8

⁴ 秋山和夫（2001）「教育実習」 北大路書房pp29

⁵ 秋山和夫（2001）「教育実習」 北大路書房pp29

⁶ 百瀬ユカリ（2007）「よくわかる保育所実習」 創成社 pp35

⁷ 百瀬ユカリ（2009）「よくわかる幼稚園実習」 創成社

⁸ 百瀬ユカリ（2009）「よくわかる幼稚園実習」 創成社 pp160～ pp172

⁹ 前橋明 他（2008）「保育・教育・施設実習」 ふくろ う出版pp8

¹⁰ 前橋明 他（2008）「保育・教育・施設実習」 ふくろ う出版pp23

¹¹ 前橋明 他（2008）「保育・教育・施設実習」 ふくろ

う出版pp31

¹² 小川清実他（2006）「幼稚園実習」 ななみ書房 pp42

¹³ 同上

¹⁴ 小川清実他（2006）「幼稚園実習」 ななみ書房 pp51

¹⁵ 玉置哲淳・島田ミチコ（2010）「幼稚園教育実習」 建帛社pp12

¹⁶ 阿部和子・増田まゆみ・小櫃智子（2009）「保育実習」 ミネルヴァ書房Pp6-pp7

¹⁷ 阿部明子 他（2006）「教育・保育実習総論」 萌文書林pp214

¹⁸ 河邊貴子・鈴木隆（2006）「保育・教育実習 フィールドで学ぼう」 同文書院Pp43

¹⁹ 秋山和夫（2001）「教育実習」 北大路書房 pp8-pp9

